

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678番地の1		
自己評価作成日	H27年6月16日 南棟	評価結果確定日	平成27年7月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」をモットーに、無理強いしない介護、笑顔で楽しく過ごせる楽しみの共有を目指しています。 利用者との関係ではなく、ホーム全体を一つの家族と考え、皆さんが落ち着ける環境づくりを目指し、スタッフ自身が楽しめ、お互いが笑顔になれる関係を心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあがの 南棟**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を理解し、入居者をその人らしく生活できるように支援している。また、今後は話し合いを行い必要なら理念の見直しを考えていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、常日頃から友好的な態度で、近隣の方と接している。また、ホームの行事等に参加を呼びかけ、交流を持っている。子供会や老人会、近隣の方からの野菜の差し入れ等、交流は増えてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症の理解を呼びかけている。運営推進会議での理解は、深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規則をつくり、2ヶ月に1回、定期的に会議を行っている。事故報告を行い、行事等のアドバイスをいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場職員の参加を呼びかけ、ホームの状況、外部評価、公表制度などを報告し、意見を求めている。福智町の方向性や参加者から質問など行い活気のある会議を目指している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束の廃止に取り組む努力をしている。夜間や手薄な時など安全が確保できない時は、施錠をしている場合もある。今後は、学習会などを行っていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、時間がある時は読むようにしている。昨年は、身体拘束や虐待の研修会に参加した職員もいる。今後は、学習会などを行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、ホーム全体の学習会は出来ていない。昨年、研修会に参加した職員がいるので、ホーム内で学習会を開催し、全職員が理解できるよう努力していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ場合は、前もって十分な説明ができる時間を作るよう努力している。また、不安や疑問がある場合は、わかりやすく説明できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し利用者がなんでも相談しやすい雰囲気づくりに努めている。また昨年は家族にアンケート調査の協力をお願いした。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者は、職員が何でも話せる関係作りに努めている。リーダー体制を作っているが名前だけのリーダーでなく、職員間の意見や提案を出してもらい、管理者が反映できるようにしていきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の習得(介護福祉士他)などで資格手当を与えている。今年の4月には全職員ベースアップを行った。今後も、やりがいや向上心を持ってよう努力していく予定である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	昨年は高校の介護課卒業生を採用し今現在男性スタッフも4人採用している。今後も年齢や性別などの制限などなく、個人個人を尊重し能力に応じた仕事ができるように配慮していきたい。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	役場の学習会に参加し、学習してきたことを職員で共有できるようミーティングなどで話し合う機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役場やグループホーム協議会などの学習会に参加をしている。また月1回、ホーム内学習会を行いステップアップができる環境作りに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	役場の学習会に参加し、他施設との交流を行っている。またグループホーム協議会の親睦会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望があった場合には、体験入居を勧めて、本人と面談の機会を多く持つようにし、本人を理解する努力をしている。また、面談結果を職員全員で話し合うようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の希望があった場合には、家族の求めていることを理解するため、話し合いを多く持つように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたうえで、本人にとって自宅や他のサービスが必要な場合は、そちらを勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築くよう努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時、入居者の状況を話す機会を多く持ち、本人を支えていく関係を築いていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の意向をよく聞き、昔行っていた馴染みの店や病院など、希望に沿って連れて行っている。今後も継続していく。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性が強い入居者が多いため、トラブルを起こすこともあるが、その都度職員がフォローしている。食堂や居間ソファでテレビを見たり、会話をするなど集まれる時間を作り、トラブルを起こさない様努力をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事には参加を呼びかけている。また、家族から相談事がある場合には、出来る限り協力するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から、利用者と話をするときにどのような思いや希望があるかを聞き出せるような会話を努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や記録などに目を通し入居してからの会話の中から思い出や今までの暮らしぶり等を把握するよう努めている。意思疎通が難しい場合は家族や会話の中、管理者からの情報を得よう心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分が感じた事や見た事の他にも、他スタッフの記録を読んだり話を聞くなどして情報を得るよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直し時、家族と話す機会はあまりないので管理者からの情報を得たり、スタッフとは日頃からコミュニケーションをとり本人とは日常の会話や行動から必要なことを計り介護計画に反映できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録に日々の様子や気づきを記入し、職員間で共有している。また、その記録を参考に、介護計画の見直しに生かしている。今後はもっと活用しやすい記録用紙の見直しを考えている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特徴を生かし、家族や入居者の希望に沿えるように、通院介助、外出など柔軟な支援が行えるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流など積極的に行っている。老人会主催の敬老会にも参加している。今後は陶器まつりや運動会などの参加を考えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ受診を行っている。本人や家族の希望は大切にし、安心して医療が受けられるように支援している。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の変化や気付いたことを、訪問看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。また、早めの病院受診を心掛けているが、緊急時にはすぐに対応してもらえるよう体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合、本人が安心して入院治療を受けられるように、医師、看護師などと情報交換を行っている。また、退院後のホームでの受け入れについても、本人の病状の経過を密に聞き、職員全員に伝えたくえ話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りホームで過ごしていただくが、重度化した場合は、家族と話し合いの場を持っている。必要な場合は、かかりつけ医と話し合いを行い、職員全員で方針を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ビデオやマニュアルを作成し、いつでも見れるようにはしているが、定期的な訓練は出来ていない。今後、訪問看護師や消防署などに相談し、定期的に学習会や訓練を行えるよう努力する。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、ホーム内での避難訓練は年2回行っている。災害時の備品も準備して備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような言動は、慎むようにしている。また、言葉遣いや対応が好ましくない場合は、職員同士で注意を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、入居者が自分の思いを話しやすい環境を作っている。重度の認知症の方には、表情を観察したり、短い言葉で分かりやすい話し方に気を配り、本人の思いをくみ取るよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、その人の暮らしに合わせて、出来るだけ希望に沿える支援を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人の個性を大切に、さりげなくアドバイスや相談に乗っている。散髪は、ほとんどの方が訪問美容室にて行っているが、希望される方は行きつけの美容室に連れて行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じて、食事後の下膳が出来る方は行っている。またパン食を希望させる方にはパンを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせ、必要な栄養、水分は取れるようにしている。食欲の低下している方は、好みの食事、希望する時間、回数を増やすなどの対応を取っている。嚥下の悪い方は、刻み食やとろみをつけて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声掛けを行っている。自分で出来ない入居者は、介助を行い、口腔内の清潔には気を付けている。また、必要に応じて歯科受診も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターン、習慣をキャッチし、見逃さず気持ちよく排泄できるよう支援している。常にトイレでの排泄を心がけている。紙パンツから布パンツへ変更できるよう支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の管理、食べ物、運動などに気を付け、予防に努めている。便秘気味の方には、ヨーグルトや薬を試みている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めているが、希望する時間に気持ち良くゆったりと入浴できるよう、必要に応じて介助を行っている。入浴を望まない時は、無理強いはいないようにしている。汚染があった場合には、その都度対応している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のために、嗜好品の提供や雰囲気作りに努めている。不眠を訴えてきた入居者に対しては、話を聞いたり、お茶を勧めたりして安眠できるよう働きかけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の用紙を作成し、薬を理解できるようにしている。また、個人記録に綴じている説明書や、服薬管理の用紙にて副作用、効能など記入し個人個人の薬を把握できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内のレク体操や塗り絵、週1回のパンの購入(訪問パン屋)、2週間に1回の訪問販売(セブンイレブン)など楽しみにされており、思い思いの生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される入居者が少なくなったため、花見や紅葉見物などの年間行事以外は出かけていない。今後、計画していく予定である。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者がお金の管理が出来なくなっているが、出来る方は、パンの購入時などの支払いや管理を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があればいつでも使用でき、家族等と話をすることを楽しみにしている。手紙は、年賀状や暑中見舞い、夏祭りの案内などでやり取りを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、日頃から常に清潔に配慮している。季節の花を飾ったり、目印を付けるなどして混乱をまねかないような工夫をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファやテレビを設置し、入居者が集まりやすいように工夫している。食堂で話を楽しんだり、テレビを観たり思い思いに過ごせている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染みのあるタンスなどを設置し、本人が安心して過ごせるように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに目印をつけ、本人に分かるよう工夫している。また、廊下には手すりを設置しており、歩行訓練などをされる入居者もいる。		